2011
Number
075

TAMA UNIVERSITY

Rapport

現代の志塾 多摩大学

Rapport（ラポール）とは、仏語で「信頼と親愛の絆」を表しています。
多摩大学広報紙「Rapport」は、多摩大学と多摩大学サポーターをつなぐコミュニケーション紙です。

発行者　多摩大学　　発行日　2011年10月25日
東京都多摩市聖ヶ丘4-1-1　TEL:042-337-1111　FAX:042-337-7101
http://www.tama.ac.jp/

Contents

News
学内合同企業説明会 開催　P.02

平成22年度 田村学園概要
経営情報学部後援会定期総会と交流会 報告　P.03

特集 キャリア支援
オープンキャンパス　P.04

東日本大震災 ボランティア活動 報告　P.07

多摩学
三鷹の森ジブリ美術館（三鷹）　P.08

News

学内合同企業説明会 開催

4年生対象の学内合同企業説明会が、5月27日（金）13時30分から学生食堂にて開催されました。計23社の企業に対し90名超の学生が参加し、熱気に溢れました。また7月29日（金）には第2回学内合同企業説明会が開催され、厳しい就職戦線を戦う4年生が多数参加しました。説明会にはIT・情報処理や商社、流通など11分野から18社の企業が参加し、担当者はブースに来場した学生に対し熱心に向き合い自社をアピール。学生にとっては、身近な場所で関心のある企業とコミュニケーションをとることができる好機となりました。

気を引き締めスーツ姿で説明会に臨む学生たち
http://www.tama.ac.jp/topics/news/2011/08/4-7.html

多摩キャンパスにて 教育内容説明会 開催

6月23日（木）14時から多摩キャンパスにて、「教育内容説明会」が開催されました。今年度も多摩大学に関心をお持ちの高校・予備校の教員の皆様に多数ご参加いただきました。経営情報学部、グローバルスタディーズ学部両学部長よりカリキュラムに基づいた教育内容の説明を行い、その後教育内容の詳細をDVDにて視聴いただきました。休憩を挟み、今年度の入試概要を両学部の入試委員長より説明いたしました。学内見学及び個別相談のブースも設けており、AO入試や推薦入試などの疑問点についてもきめ細かい対応を行いました。

学部長の説明に熱心に耳を傾ける参加者の皆様
http://www.tama.ac.jp/topics/news/2011/06/post-1465.html

「多摩地域の採用実態調査報告会」開催

7月8日（金）14時～17時、たましん事業支援センターにて多摩信用金庫、多摩大学地域活性化マネジメントセンター「志企業研究会」主催で「多摩地域の採用実態調査報告会」が開催されました。同研究会は多摩信用金庫と連携し、多摩地域に基盤を持つ約500社の企業の協力により、当地域初の本格的な「採用実態調査」を実施。報告会では調査結果報告に加え、企業、行政、大学からそれぞれ採用の現場に立つパネリストが、多摩地域における求人・求職・採用に関する課題と人材ニーズとのマッチングを図る方法についてディスカッションしました。

議論が展開されたパネルディスカッション
2010年度多摩地域の採用実態調査報告書（抜粋版）
http://www.tama.ac.jp/guide/documents/2010saiyou.pdf

グローバルスタディーズ学部の学生が地域防犯パトロール隊に

グローバルスタディーズ学部に、湘南地域では初の大学生主体の防犯ボランティア『多摩大学防犯パトロール隊』が発足し、6月10日（金）結成式を行いました。藤沢北警察署からの働きかけがきっかけで結成され、地元の防犯協議会や警察署、市とも協力して地域の見回りの他、イベントの支援などにも取組む予定。「地元の他大学、小中学校、商店街などとも連携し、イベント等での協力を通じて地域との交流を深めたい」と隊長で3年生の千島成貴くん。団体名は「たまパト」、88名のメンバーが登録し、毎月2～3回交替で湘南台と六会エリアをパトロールします。

防犯シンボルの緑色の腕章とベストを着用して
http://www.tama.ac.jp/topics/news/2011/06/post-1462.html

樋口裕一ゼミ主催「定期演奏会」開催

7月1日（金）19時からパルテノン多摩小ホールにて樋口裕一ゼミ主催の「多摩音楽祭前夜祭　フィルハルモニア多摩第2回室内楽定期演奏会」が開催されました。来年以降に開催予定の「多摩音楽祭」の前夜祭としての位置づけで、テーマは、「子どもたち・お年寄り・青春・若さ」家族全員が楽しめる音楽の祭典。身近なところでクラッシック音楽を楽しんでほしいと2004年に結成された「フィルハルモニア多摩」は、ポーランド国立歌劇場指揮者：今村能 音楽監督の下、地元に根ざし、尚かつ質の高い音楽を提供する事をめざして活動しています。

会場入口で来場者を迎える樋口ゼミの学生
http://www.tama.ac.jp/topics/news/2011/07/20117119002.html

Student Research Conference 2011 Summer 開催

7月16日（土）多摩キャンパスにて「SRC（Student Research Conference 2011 Summer）」が開催されました。SRCは経営情報学部の学生がゼミの研究成果などの発表を行う場です。それぞれのテーマで、これまでの研究成果をパワーポイントなどを使用して発表しました。会場にはゼミの枠を超えて教員や学生が多数出席しました。質疑応答では教員から発表者一人ひとりに今後の研究活動に活かせるよう的確なアドバイスがありました。学生にとっては互いに切磋琢磨できる貴重な機会となりました。

取り組んだ研究の成果を熱く語る学生
http://iis.edu.tama.ac.jp/src/

平成 22 年度　学校法人田村学園概要

多摩大学の経営母体である学校法人田村学園は、私立学校として積極的に情報開示をしております。
最新の田村学園概要は、以下のとおりです。

〔学校法人 田村学園　貸借対照表〕

貸 借 対 照 表

平成 23 年 3 月 31 日（平成 22 年度）

（単位　百万円）

資産の部			
科　目	前年度末	本年度末	増　減
固定資産	22,364	22,135	△ 229
有形 固定 資産	20,998	20,673	△ 325
土　地	11,992	11,992	0
建　物	7,775	7,575	△ 200
そ の 他	1,231	1,106	△ 125
その他の固定資産	1,366	1,461	95
借 地 権	4	0	△ 4
第 2 号基本金引当資産	1,100	1,200	100
そ の 他	262	261	△ 1
流動資産	2,594	3,160	566
現 金 預 金	1,536	2,160	624
そ の 他	1,058	1,000	△ 58
資産の部合計	24,958	25,295	337
負債の部			
科　目	前年度末	本年度末	増　減
固定負債	320	338	18
長 期 借 入 金	2	2	0
退職給与引当金	317	336	19
長期未払金	1	0	△ 1
流動負債	1,019	968	△ 51
短 期 借 入 金	1	1	0
前 受 金	684	700	16
そ の 他	334	267	△ 67
負債の部合計	1,339	1,306	△ 33
基本金の部			
科　目	前年度末	本年度末	増　減
第 1 号　基本金	28,760	28,734	△ 26
第 2 号　基本金	1,100	1,200	100
第 3 号　基本金	92	92	0
第 4 号　基本金	397	397	0
基本金の部合計	30,349	30,423	74
消費収支差額の部			
科　目	前年度末	本年度末	増　減
消費支出準備金	0	0	0
翌年度繰越消費支出超過額	△ 6,730	△ 6,434	296
消費収支差額の部合計	△ 6,730	△ 6,434	296
科　目	前年度末	本年度末	増　減
負債の部、基本金の部、及び消費収支差額	24,958	25,295	337

〔平成 22 年度　計算書類多摩大学分　抜粋〕

〔資金収支内訳表〕

（資金収入）　（単位：百万円）

学生生徒等納付金収入	3,642
手数料収入	76
寄付金収入	55
補助金収入	1,188
資産運用収入	15
事業収入	163
雑収入	134
その他	75
前年度繰越支払資金	1,536
合計	6,884

（資金支出）

人件費支出	2,947
教育研究経費支出	911
管理経費支出	534
借入金等利息支出	0
その他	333
次年度繰越支払資金	2,159
合計	6,884

〔消費収支内訳表〕

（消費収入）　（単位：百万円）

学生生徒等納付金	3,642
手数料	76
寄付金	55
補助金	1,188
資産運用収入	15
事業収入	158
雑収入	134
帰属収入合計	5,268
基本金組入額	△ 100
合計	5,168

（消費支出）

人件費	2,966
教育研究経費	1,300
管理経費	578
その他	55
合計	4,899

当年度消費収入超過額	270
基本金取崩額	26

・学生・生徒等（人）

田村学園全体	4,860
多摩大学　学部	
経営情報学部	1,466
グローバルスタディーズ学部	600
多摩大学　大学院	114
高校（2）・中学（2）・幼稚園（3）	2,680

・キャンパス面積（㎡）

田村学園全体	115,760
多摩大学	44,913
その他	70,847

以上、平成 23 年 5 月 1 日　現在

経営情報学部後援会定期総会と交流会 報告

http://www.tama.ac.jp/smis/smis_kouenkai.html

5 月 21 日（土）多摩キャンパス 101 教室にて、「多摩大学経営情報学部後援会定期総会並びに交流会」が開催されました。初めに諸橋正幸学部長より「平成 22 年度事業報告及び平成 22 年度決算」、「平成 23 年度事業計画及び平成 23 年度予算」について説明されました。今年度は後援会会員を対象としたイベントとして、「第 12 回セミナー」と懇談会（品川サテライト）、「平成 22 年度父母懇談会（3 年次生対象）」（多摩キャンパス）等を開催し、就職活動支援として「ゼミ担当教員との個別面談」などが実施されました。平成 23 年度は、年 2 回（平成 23 年 10 月、平成 24 年 2 月予定）の学部主催父母懇談会開催への協賛などの新規事業が計画に盛り込まれました。引き続き平成 23 年度経営情報学部後援会役員の選出と承認が行われ、新会長は木村和俊氏にお引受いただくこととなりました。

次の T-SAP 短期長期海外留学プログラム成果報告会では、野澤勇太さん（長期 Sonoma プログラム）と渡邊瞬さん（長期 PSU プログラム）が英語で留学先での体験を発表しました。
定期総会終了後は会場を 111 教室（アゴラ）に移し、教員を囲んで交流会が行われました。会員と教員が直接交流する懇談会は今回が初めての試みで、会場ではゼミの内容や学生の様子などが熱心に話し合われました。

後援会定期総会で挨拶する木村新会長

交流会会場の様子

就職支援 Career Support 経営情報学部

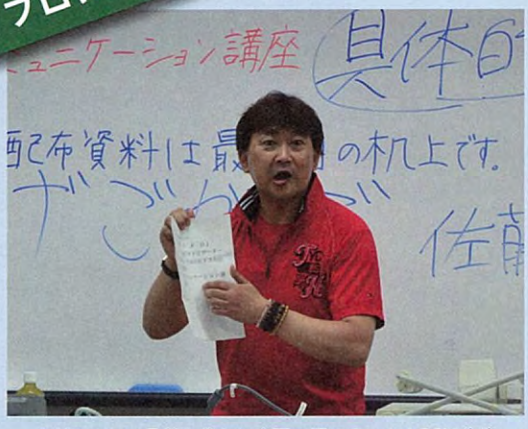
経営者に学ぶ！ 行徳哲男氏講演＆立志起業家キャリア形成懇談会

写真左から御堂氏、深山氏、行徳氏、坂内氏、森氏、奥原氏

6月16日（木）多摩キャンパス201教室にて、『行徳哲男氏講演＆立志起業家キャリア形成懇談会』が開催された。これはアジアダイナミズム･グローバル人材に関心をもつ志あるベンチャー企業の経営者と多摩大生が交流し対話することで、幅広く豊かな就業観とキャリア形成マインドを向上させることが目的。日本BE研究所所長の行徳哲男氏による講演『企業家としての志と勇気ある生きかた』、その後『立志企業家　キャリア形成懇談会』が行われた。行徳氏は「人間開発、感性のダイナミズム」訓練を完成させ、550回もの研修で訓練を実施し、多くの著名人に影響を与えてきたカリスマ的人物。懇談会には行徳氏をはじめ、坂内勇仁氏（スターツ証券㈱社長・スターツグループ取締役）、森博臣氏（武蔵商事㈱代表取締役）、奥原淳氏（㈱グルメぴあネットワーク代表取締役）、深山健彦氏（㈱アメニクス代表取締役社長）、御堂裕実子氏（合同会社ファブリッジ代表）が参加し、起業や経営の体験談、仕事への心構えなどが熱く語られた。

http://www.tama.ac.jp/topics/news/2011/06/post-1464.html

プロに学ぶ！ DJ・HAGGYのコミュニケーション講座



よどみのない言葉と豊かな表現で語るDJ・HAGGY先生

DJ・HAGGYこと萩原浩一先生はラジオDJ＆パーソナリティ、TVナビゲーター＆MC、またレディオ湘南（FM）のモーニングワイド番組を15年間担当するなど湘南エリアを中心にマルチに活躍する人気のDJ。グローバルスタディーズ学部では非常勤講師として、3・4年生を対象とした週1回のコミュニケーション講座を担当している。6月22日（水）・23日（木）、多摩キャンパス201教室にて『DJ・HAGGYのコミュニケーション講座～就活の面接でアピールできるようにするには～』が開催された。講座でHAGGY先生は「口を開けて話さないと言葉はこもってしまう」と発音・発声方法を解説し、学生たちは口を開け声を出してトレーニング。「みんなが同じ格好で臨む面接で、印象付けるには言葉がポイント」「同じ答えでも自分の言葉で話す」「自己紹介は具体的に、分かりやすい言葉で」「聴き上手は話し上手」など、言葉遣いや態度など面接で役立つ話し方を楽しく伝授、受講した学生たちは言葉のプロの巧みな話術に引き込まれた。

http://www.tama.ac.jp/topics/news/2011/06/dj-1.html

先輩に学ぶ！ 新入生・卒業生懇談会

新入生たちは先輩を囲んで意見交換

「社会で活躍している先輩たちから今年入学した1年生に、仕事の体験を率直に話してもらう機会を設けたい」との趣旨で、6月25日（土）、杉田文章教授の授業「ビジネス入門」の中で、「新入生・卒業生懇談会」が多摩キャンパス001教室にて開催された。50名を超えるOB・OGの方々に出席いただき、スーツ姿の1年生約360名が参加した。13時から行われたパネルディスカッションでは、藤本亜希子さんが『「仕事」と「コミュニケーション」』、大場達也さんが『大学で学んだものとは？』、丸山弘明さんが『仕事の目的、人生の目的』とそれぞれのテーマで自身の仕事や大学時代の体験談、就職活動などを1年生に向けて話した。その後1年生は各グループに分かれ小教室に移動、OB・OGがグループに加わりミーティング。1年生は緊張しながらも予め用意した質問を投げかけ、先輩たちは体験談を交えて丁寧に答えていた。このような懇談会は初めての試みで、仕事について考え、さらに新旧多摩大生の意識と絆を深める好機となった。

http://www.tama.ac.jp/topics/news/2011/06/2011625.html

オープンキャンパス Open Campus 多摩キャンパス

http://www.tama.ac.jp/topics/news/2011/07/20112-1.html

オープンキャンパス特別企画 サンリオピューロランドを体験しよう！

多摩大学はサンリオピューロランドとパートナーシップを結び、学生の視点から問題を発見・解決する実践的な学びの場としてプロジェクトゼミナールを開講している。7月10日（日）オープンキャンパスの特別企画「サンリオピューロランドを体験しよう！」では、午前中、高校生は在学生と共にサンリオピューロランドで実地調査を行い、午後からは模擬授業に参加し、課題解決のためのグループワーク体験を行った。

模擬授業ではグループワークで考え出した高校生イベントを発表

スペシャルプログラム

～サンリオピューロランドの問題解決イベントの企画・運営を考える～

112教室　14：00～15：20
講師　松本 祐一 准教授

テーマは「サンリオピューロランドの高校生イベントを考える」。ピューロランドの課題は何か、課題を解決させるためにはどんなイベントがいいのか。志（どうしたいか）・顧客のニーズ（どうすべきか）・ピューロランドの強み（どうできるか）、この3点を考え高校生向けイベントのアイデアを提案する。高校生はグループに分かれ在学生のリードで積極的に意見交換を行い、アイデアを模造紙に書き出して発表した。

模擬授業

「パソコンの窓からピューロランドを覗く」

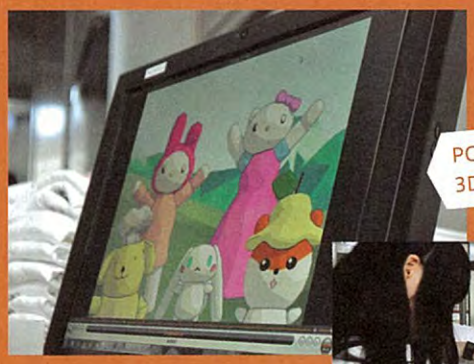
101教室　14：00～14：50
講師　齋藤 T. 裕美 教授

カメラから覗くと現実にはその場所にないものが表示される、AR（仮想現実感）の仕組みを簡単に解説し、ゼミが取り組む「地域コンテンツのデジタル化と地域還元」について講義。

齋藤 T. 裕美ゼミ体験企画

Enjoy! Puroland Again

キャンパス内をまわって情報カードを集め、カメラを使ってPCに読み込ませるとバーチャル空間にサンリオキャラクターが再現される。高校生はゼミ生の案内で3DGの技術を体験した。



PCの画面でゼミ生が作った3DGのキャラクターが動く。

情報カードをTシャツに貼り、コンピュータに読み込ませると、キャラクターの画像が現れる。

経営情報学部
新カリキュラム全体像

産業社会の問題解決の最前線に立つ人材を育てる。

http://www.tama.ac.jp/smis/smis_curriculum.html

多摩大学は、開学 20 周年を機に教育理念を「現代の志塾」と定めました。それに沿って経営情報学部の教育目標を「産業社会の問題解決の最前線に立つ人材を育てる」と定め、カリキュラムの再編を行いました。
「産業社会論」「問題解決学」「最前線事例」の 3 つにカリキュラムを体系化し、問題解決力の高い人材（志士）を育てます。

カリキュラムポリシー

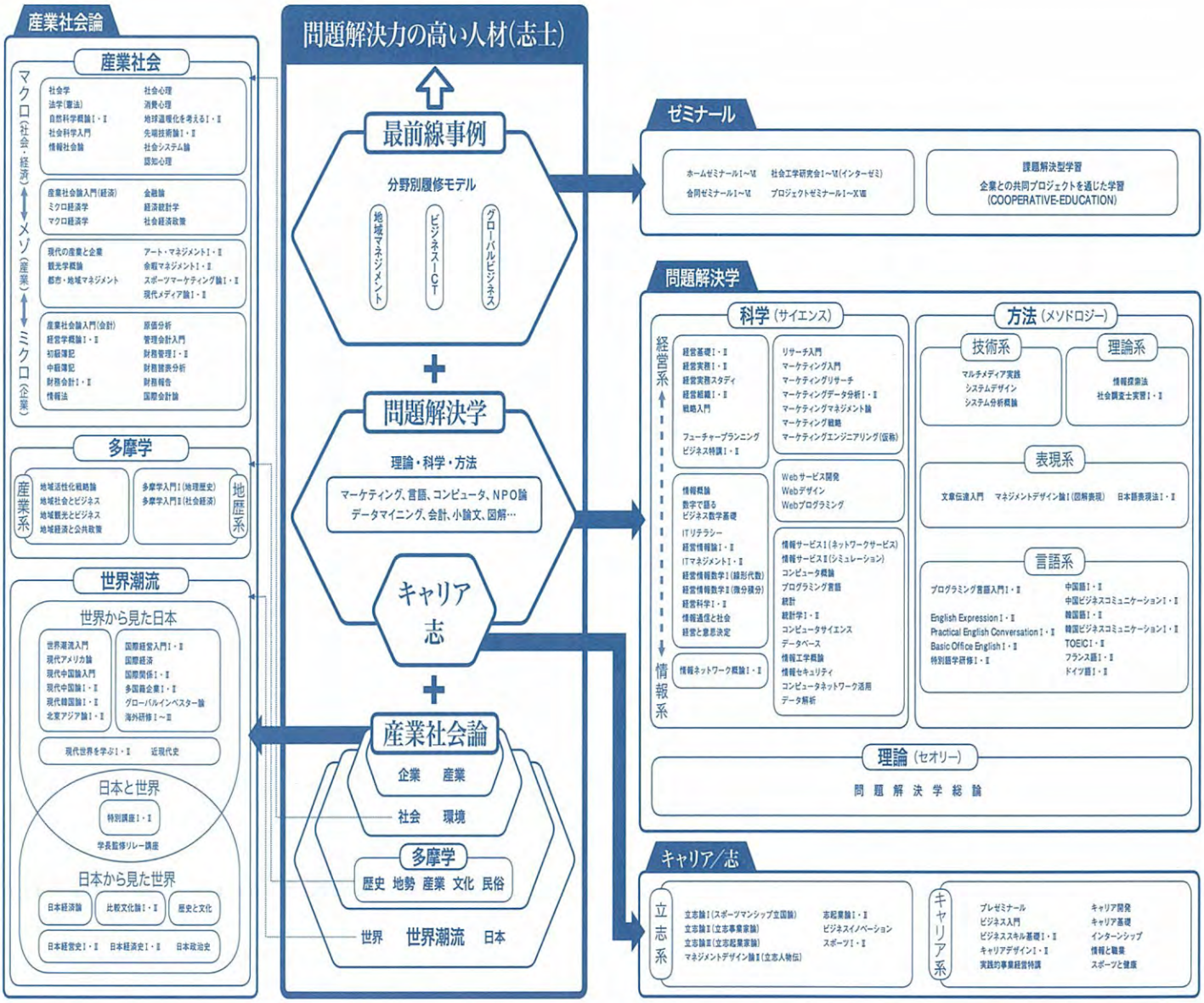
本学の建学精神に基づき、右の二つの柱で構成されたカリキュラムによって、学生自身が各自の「志」を実現できる力を付け、人間的成長を促す教育を実現します。

● ゼミ中心教育カリキュラム

双方向型少人数教育をゼミナールの形で行い、産業社会や地域社会の中で直面する問題を採り上げ、それらを分析し解決策を提案・実施する活動を通じて、問題解決の実践力を養う実学教育プログラムを展開します。

● 実践的知識獲得のための講義カリキュラム

問題の分析・解決策提案・実践に必要な考え方や知識を幅広く学ぶため、学際性、国際性を考慮した科目群を配置します。講義内容は、知識断片の記憶を排し、どのような手法や知識がどういう問題解決に役立つかを中心に教える実学教育プログラムを展開します。



東日本大震災 ボランティア活動 報告

http://www.tama.ac.jp/info/volunteer.html

わたくしたち日本人は、戦後、「平和で豊かな国」を目指して歩いてきた。
しかし、3・11 によって、物質的な豊かさの空虚さや平和なるものの浅さを知った。
そして、「豊かさ」と「安易な平和」を追求するあまり、自立自尊の精神を見失ってきたことにも思いをいたさねばならないだろう。
「日本は終わった」ともいわれるほどの厳しい現実の中で、「どっこい、日本は終わっていない」ことを自分の頭で考え抜くために、
我々は何に目を向け、こだわるべきか。

—寺島実郎著「世界を知る力」日本創生編より—

多摩大学学長　寺島 実郎

宮城県で瓦礫の撤去作業

経営情報学部 3 年生　吉本崇晃さん

吉本崇晃さん（浜田正幸ゼミ）は 6 月 23 日～ 26 日の間、多摩市福祉協議会主催のボランティア活動に参加し、東日本大震災で被災した宮城県牡鹿半島、小網倉浜港地域の瓦礫の撤去作業を行った。

吉本崇晃さんのコメント

「正直まだまだ被災地はひどい状況です。ある橋を渡るとほとんど町に家はなく、残ったのは木材、コンクリート、臭い…半壊した家も多く、まだ手をつけられていないことが多い…。今回のボランティアで少しでも力になれたらと感じています。また時間ができたら行きたいと思います」

瓦礫撤去活動に参加した吉本崇晃さん

東日本大震災復興応援イベント開催

村山貞幸ゼミ「日本大好きプロジェクト」

7 月 17 日（日）17 時～ 20 時、宮城県気仙沼市にある曹洞宗 金浦山 青龍寺とコラボレーションし、「青龍寺～和紙キャンドルナイト～」を開催。ゼミ生が原料から漉いた和紙に、東日本大震災で大きな被害を受けた気仙沼の子どもたちと東京の子どもたちに絵やメッセージをかいてもらい、それを和紙キャンドルに仕立てた。約 700 個の和紙キャンドルを日本の伝統模様「七宝」の形にして青龍寺の境内に設置することで東北と東京の「繋がり」を表現、さらに被災地の子どもたちと東京の子どもたちの想いが一つになり復興に向けての大きな力となるよう願いをこめて演出した。
また紙芝居や影絵を行い、子どもだけでなく大人にも日本の伝統文化の奥深さを五感で感じてもらえるイベントとなった。

和紙に絵を描く子どもたちとゼミ生

被災地復興ボランティア活動

菅野光公ゼミ

ゼミ生 11 名（3 年生 10 名、4 年生 1 名）は、菅野先生が参加する「ネットワーク多摩」を通じて寄せられた、社団法人「東北復興プロジェクト」からの要請に応えて、9 月 5 日～ 8 日宮城県多賀城市の市有地 10 万㎡の一部で農地開墾ボランティア活動を行った。開墾した農地は震災被災者と障害者との雇用を創出する「復興プロジェクト」に活用される。
9 月から農地利用者の採用が始まり、2 年以内に 100 人規模の雇用を目指すとのこと。作業最終日に同プロジェクト理事長の渡部哲也さんが、激甚津波被災地の仙台市若林区に多摩大生を案内して下さった。一瞬の津波で約 300 世帯の家屋が流失、200 名以上が亡くなられた現場でゼミ生達は言葉もなくただ呆然と立ち尽くしていた。

開墾地の菅野先生とゼミ生たち

東北「道の駅」大震災 研究プロジェクト

http://www.tama.ac.jp/guide/managementcenter.html

財団法人 JKA の平成 23 年度公益事業振興補助事業（東日本大震災復興支援）に本学が申請した「被災地災害対応拠点としての「道の駅」調査・分析」が採択されました。
東日本大震災で東北の「道の駅」が果たした役割と、今後の可能性について、震災発生時の被災者救援機能、その後の復旧支援機能、今後の復興支援機能の 3 段階に分け、東北の「道の駅」への調査を実施しました。
その成果を関係機関に報告すると同時に、広く社会に情報提供することで、「道の駅」を核とした災害に強い国づくり、街づくりを提案します。
財団法人 JKA の援助の下、今後は進捗状況や地域貢献の内容を逐次ホームページ等に公開し、社会や地域に貢献する予定です。

"多摩" 人物紀行―― 5

多摩学 005

地下1階から地上2階までが吹き抜けの中央ホール。螺旋階段や空中廊下、張り出しテラスなどまるで迷路のような空間（写真左）。屋上庭園には巨大なロボット兵のまもり神が直立する（写真右）。

© Museo d'Arte Ghibli

三鷹の森ジブリ美術館
（都立井の頭恩賜公園西園内）
東京都三鷹市下連雀1丁目1-83
開館時間 10:00 ～ 18:00　休館日：火曜
日時指定の予約制でチケット（入場引換券）はローソンで購入、大人・大学生 1000円
http://www.ghibli-museum.jp/
JR中央線三鷹駅南口・吉祥寺駅、または京王井の頭線吉祥寺駅・井の頭公園駅から徒歩約15分。

三鷹の森ジブリ美術館（三鷹市）

久恒　啓一　（多摩大学経営情報学部教授）
http://www.hisatune.net/

「風の谷のナウシカ」「天空の城ラピュタ」「となりのトトロ」「もののけ姫」「千と千尋の神隠し」と続く数々のアニメーションの名作を世に送り出した偉大なアニメーション映画監督・宮崎駿の記念館はまだない。まだ現役だから当然だが、この人物の志を知りたくて「三鷹の森ジブリ美術館」を訪ねた。

中央線の三鷹駅で降りて、太宰治が入水自殺した玉川上水に沿って歩き、山本有三記念館を過ぎて角を曲がると、井の頭公園の一角にあるジブリ美術館に着く。この美術館には宮崎駿本人を知るための直接の資料はほとんどなかったが、宮崎駿の名前は館主という肩書き表示で存在していた。

広い空間をどのようにまわるのかと考えていたら、「決められた順路はありません。順路を決めるのはあなたです」「この空間を心から楽しみ『迷子』になってくれる主人公を、心より歓迎いたします」との表示がパンフレットにあった。

ここは珍しい日時指定の予約制の美術館だが、春休みだけあってやはり子ども連れの家族が多い。どの子供たちの顔も楽しそうだ。

地下1階、地上2階建てのジブリ美術館。地下1階には映像展示室「土星座」と中央ホール、1階の常設・企画展示室には「アルプスの少女ハイジ」（1974年）など作品の一部が展示され、映画づくりの現場も見せてくれる。アニメーターの条件というものが書いてあり、「絵がかける」「人や物の動きを理解し表現できる」「作業能力がある」、そして「職人的な素養」、加えて「生命への愛情」とあった。2階はネコバスルーム、ショップ「マンマユート」、そして外付けのラセン階段をのぼるとまもり神のいる屋上庭園に着く。地下のパティオ（中庭）と2階の鉄橋からは、「麦わらぼうし」というカフェにいくことができる。

買って帰った本によると、「やはり子ども向きのいい映画を作るっていうスタジオにしておこうと思うんです」との記述がある。子供達に励ましや世界を美しいと思うすべを教えようとしている。未来への希望を伝えようとしていると感じる。

宮崎駿はアニメの分野では、先達の手塚治虫を批判する。手塚のアニメは日本の漫画から出発したのではなく、ディズニーから出発したという分析だ。宮崎駿によれば、ディズニーは入り口と出口が同じだという。入った低さから少しでも高くなって出すようにしたいというのが宮崎駿の考え方だ。だからいつの間にか階段を昇ってしまうようなチャップリンの方を好んでいる。

盟友のアニメーション映画監督・高畑勲の宮崎駿観が、仕事に臨む宮崎駿のすべてを語っているように見える。「宮崎駿はすごい働き者である」「宮崎駿の頭は大きい」「宮崎駿とのキャッチボールは大変である」「宮崎駿の頭脳はいつも忙しい」「宮崎駿は苦労人である」「宮崎駿は極端な照れ屋である」「宮崎駿は平気で暴言を吐く」「宮崎駿は思い入れの人である」「宮崎駿はとことん具体性を重視する」「宮崎駿は克己の人である」、、、。

「過剰表現主義と動機の喪失が日本のアニメーションを腐らせている」という宮崎駿は、継続的にアニメーションを作り続ける母体としてスタジオジブリをつくった。表現者であると同時に、経営者としてこの組織を続けることにも力を注がねばならない。時代を駆け抜けて大きな存在になってきた宮崎駿も、もう70歳だ。ジブリ美術館の初代館長だった息子の宮崎吾朗は父の後を継いで、「ゲド戦記」に続き「コクリコ坂から」を監督するなど必死で追いかけはじめた。

「もののけ姫」は「日本を舞台にした時代劇」というテーマを持っていると宮崎駿はいう。私たちはこの人物と同時代を生きて、新作を最初に観ることができる幸せをいつまで持ち続けることができるだろうか。

Information

11月5日（土）、6日（日）多摩キャンパス『雲雀祭 2011』、湘南キャンパス『SGS Festa 2011』が開催されます。ぜひご来場ください。
http://www.edu.tama.ac.jp/hibari/
http://www.tama.ac.jp/sgs/sgs_campuslife/002.html

Rapport　Number.075
発　行　多摩大学
東京都多摩市聖ヶ丘4-1-1
TEL:042-337-1111　FAX:042-337-7101
印刷・編集　株式会社 インフォテック
発 行 日　2011年10月25日
http://www.tama.ac.jp/